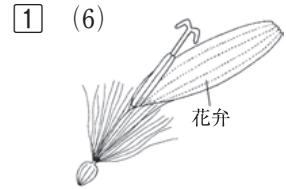


〈解答〉

- ① (1) (例) 子葉が2枚出る。  
 (2) ① やく ② イ ③ ア (完答)  
 (3) イ  
 (4) エ  
 (5) 合弁花  
 (6) 右図



配点 各1点 6点満点

〈解説〉

- ① (1) 種子をつくってなかまをふやす植物を種子植物という。種子植物は、胚珠が子房に包まれている被子植物と、子房がなく胚珠がむき出しの裸子植物に分けられ、さらに被子植物は、芽生え時に子葉が2枚出る双子葉類と、1枚出る単子葉類に分けられ、アブラナもタンポポも双子葉類である。なお、双子葉類と単子葉類の特徴は次のようになっている。

	子葉	葉脈	維管束(茎)	根
双子葉類	 2枚	 網状脈	 輪状に並ぶ	 主根 側根
単子葉類	 1枚	 平行脈	 ばらばら	 ひげ根

- (2) 1図にAで示した、おしべの先端にある袋状のつくりをやくといい、この部分でつくられた花粉がつまっている。また、Bで示した粒状のつくりを胚珠といい、アブラナなどの被子植物では、めしべの根もとのふくらんだ部分(子房)に包まれている。受粉が行われた後、胚珠は種子へ、子房は果実へと成長する。
- (3) 双眼実体顕微鏡の倍率は20~40倍程度で、それほど高くはないが、次のような長所がある。
- ・対象物を立体的に観察することができる。
  - ・プレパラートをつくらなくてもよい。
  - ・観察しながら対象物を操作することができる。
- (4) 鏡筒の間隔が目の幅(瞳孔の距離)に合っていないと、左右の視野が重ならず二重に見える。このような場合、鏡筒の間隔を調節すればよいので、全体の操作手順は、選択肢エ→ア→ウ→イの順になる。
- (5) 双子葉類は、花弁の形状から2種類に分けられる。タンポポのような、花弁が1つにくっついている花を合弁花といい、合弁花を咲かせるなかまを合弁花類という。

また、アブラナのような、花弁がくっついていない花を離弁花といい、離弁花を咲かせるなかまを離弁花類という。

(6) タンポポの柱頭（めしべの先端部分）は二またに分かれている。